

2. Am J Ophthalmol. 2022 Dec;244:183-195.

Alternative Biologic Therapy in Children Failing Conventional TNF α Inhibitors for Refractory, Noninfectious, Chronic Anterior Uveitis

Virginia Miraldi Utz, Sheila T Angeles-Han, Najima Mwase, Amy Cassedy, Theresa Hennard, Daniel J Lovell, Sarah Lopper, Hermine I Brunner Eniolami O Dosunmu, Alexei A Grom, Michael Henrickson, Jennifer L Huggins, Robert A Sisk, Tracy V Ting, Adam H Kaufman.

PMID: 35863492

DOI: 10.1016/j.ajo.2022.06.024

非感染性慢性前部ぶどう膜炎 (CAU) の小児患者において、従来の治療法で効果が得られなかった場合の代替生物学的療法 (ABT) の有効性が検討されました。従来の治療法としては、メトトレキサート (MTX) がステロイドを減量するための薬剤に推奨され、その効果が不十分な場合にはインフリキシマブ (IFX) やアダリムマブ (ADA) などの従来の TNF- α 阻害剤 (cTNFi) が使用されます。しかし、CAU の 25% から 40% は MTX または cTNFi に反応しないため、ABT の適用が検討されています。

本研究で対象となった CAU 患者のうち、75% が若年性特発性関節炎 (JIA) でした。治療成功例として、15 人が MTX 単剤療法、28 人が cTNFi 療法、そして 9 人が ABT 療法 (アバタセプト、トシリズマブ、ゴリムマブ) で症状がコントロールされました。ABT 治療群では、対照群 (MTX や cTNFi で治療された患者) に比べ、ABT 導入前の眼合併症が多かったものの、治療後に CAU がコントロールされ、外用グルココルチコイドが減量され、新たな眼合併症が現れないようでした。

この研究から、従来の治療法が効果不足だった小児 CAU 患者において、代替生物学的製剤 (アバタセプト、ゴリムマブ、トシリズマブ) が有効であることが示唆され、今後、より大規模な研究が必要とされています。

(文責 : 大阪大学 丸山 和一)